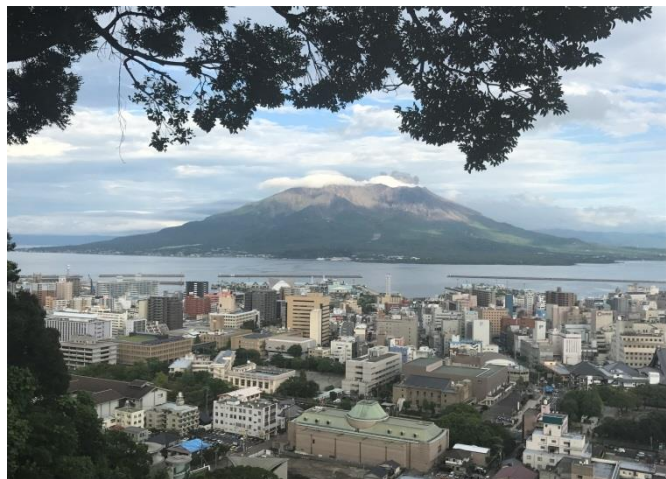


## 「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」

世界遺産検定マイスター 行田 勇治

2018年のNHK大河ドラマ「西郷（せご）どん」。主人公の西郷隆盛役は、世界遺産に熱い想いを捧げる鈴木亮平さん。本当に鈴木さんの熱演が楽しみです。

さて、歴史好きな私は、今秋（9月中旬）、鹿児島へ。やはり鹿児島といえば西郷ということで、誕生地から終焉の地まで、西郷ゆかりの場所を訪ねました。雨上がりの午後、城山から雄大な桜島を仰ぐと、維新の風が心に吹き込んでくるような感動を覚えました。



翌日、帰路まで時間があつたので、バスの一日乗車券を購入。観光地を探索すると、なんと忘れていました、仙巖園（せんがんえん）！ここに世界遺産があつたではないですか!! 鹿児島市には何度も来たことがあるのに初訪問。心躍らせて、猪突猛進です。

仙巖園は、島津家第19代当主・光久が築いた別邸。桜島を築山に、錦江湾（きんこうわん）を池に見立てたスケールの大きな庭園で、国の名勝に指定されています。ちなみに、これまでNHK大河ドラマ「篤姫」などでも、舞台のひとつとして使われています。



1851年、この仙巖園敷地の竹林を切り拓き、反射炉の建設をはじめたのが、同28代・名君として知られる、島津斉彬（しまづ・なりあきら）です。斉彬は、その周辺に溶鉱炉、蒸気機関の研究所といった施設を設置。これらの工場群を「集成館」と名づけました。

その後、1863年の薩英戦争でさらなる近代化の必要性を感じた薩摩藩は、洋式機械や蒸気機関を購入。イギリスとの間で積極的な技術の導入などを推進しました。

構成資産は、集成館に一連の生産システムがあったことを示す「旧集成館（反射炉跡、旧集成館機械工場、旧鹿児島紡績所技師館を含む）」、「寺山炭窯跡」、「関吉の疎水溝」。日本初の西洋式工場群であった集成館は、日本の近代化に大きく貢献しました。



仙巖園に着いた私は、旅行バッグをロッカーに預ける時間も惜しんで、園内を見学。

反射炉跡を訪れると、西洋列強に立ち向かおうと胸膨らませた薩摩男児の息吹が、思い浮かぶようでした。旧集成館機械工場、旧鹿児島紡績所技師館（異人館）も訪れ、近代日本の夜明けを目指した先人の心に、想いを馳せました。

「関吉（せきよし）の疎水溝にも行きたいなあ」

関吉の疎水溝は集成館の工場で、必要な動力（水力）を得るために造られた水路の取水口跡です。この稲荷川（いなりがわ）・関吉（標高 132m）から集成館があった仙巖園（標高 124m）まで、高低差わずか 8 m を利用し、約 8 km の水路が築かれました。しかし、仙巖園から関吉の疎水溝までは距離があるので、断念。それならば、水路跡や時雨の滝をひと目見ようと、仙巖園の裏山にある観水舎（かんすいしゃ）・集仙台（しゅうせんたい）へ行くことを、決意。遊歩道入口の看板には、終点まで「500 メートル。所要時間 30 分程」の文字が。「この程度なら旅行バッグを持って歩いて大丈夫だな」と、バッグを肩にかけて山道を登りました。深夜から早朝まで降り続いた雨のせいか、ところどころ山道は湿っていて、ひと気はまったくありません。静かな山の中で緑を楽しむと、リフレッシュできます。

「よし、まもなく到着だ」

視界が開け、高台に着きました。頭に雲をかぶった雄大な桜島が錦江湾とともに目見えし、気分は最高です。桜島にカメラを向けると、後ろの藪からガサッ！ と音がしました。振り向けば、30mほど向こうの藪の中に、猪がいました。目を凝らすと、木々の後ろに親子なのでしょうか、3頭もいます。瞬間、「まずい」と、よくニュースで流れる、人に突進する猪の映像が、よみがえりました。もし突進された場合、後ろは崖。1頭なら何とか免れることはできるかもしれませんが、相手は3頭。物を投げて興奮させてもいけない。とにかく落ち着け、と自分に言い聞かせました。

2頭がしっぽを振りながら、じわりと数歩、近づいてきました。その距離、25mほど。カメラを猪の方に向けていた私は、興奮させてはいけないと思い、ゆっくりと桜島に方向転換させて、撮影。“私は単に写真を撮りに来ただけで、君たちに危害を加えることはないよ”とアピールしながら、そっと遊歩道の方へ歩みを進めました。



猪たちは、なおも近づいてきます。

私は、悠然と遊歩道を数歩下がり、猪の視界から外れると、咄嗟に駆け下りました。背後から猪が突進してくることも考え、いち目散で逃げました。途中で旅行バッグを投げ出す勢いでしたが、濡れた山道で転んだ時のクッションになるかもしれないと思い、なんとか抱えながらの猛進です。

10分くらいでしょうか、ほうほうのていで、遊歩道入口まで戻ってきました。呼吸はゼーゼーと乱れ、喉はカラカラ、汗はだくだく……。ベンチに座り込み、水を少しずつクチに入れ、ようやく落ち着きました。

そして、別の方が被害にあってははいけないと、仙巖園の男性スタッフに言いました。

「集仙台に野生の猪が3頭いたんです！」

すると、若手の彼は「えーっ」と顔を引きつらせて、ベテランらしき女性スタッフを呼んできました。女性は「あーっ、うり坊、もう降りてきたんですね。今年は早いんですねー」と、笑顔。

“えっ、危なくないの？”とガクッときましたが、とにかく無事で良かったとの気持ちでいっぱいでした。冷静に思い返してみても、やはり危なかったと思います。

こんな危険は、もう最後（西郷）にしたい！

いずれにしても、世界遺産の旅は、産業遺産であっても、スリルとアドベンチャー感、最高（西郷）です！

追伸

次は、自然遺産の白神山地へチャレンジ！

そういえば、猪の生息地は宮城県が北限とされていますが、今夏、白神山地で初確認されたそうで（汗）。